

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】平成31年4月11日(2019.4.11)

【公表番号】特表2018-507089(P2018-507089A)
【公表日】平成30年3月15日(2018.3.15)
【年通号数】公開・登録公報2018-010
【出願番号】特願2017-564773(P2017-564773)
【国際特許分類】

A 6 1 B 17/10 (2006.01)

A 6 1 B 17/08 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/10

A 6 1 B 17/08

【手続補正書】

【提出日】平成31年3月1日(2019.3.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

レールと、遠位突起と、近位突起とを備える、内視鏡クリップ。

【請求項 2】

前記遠位突起および前記近位突起はそれぞれ、前記レールに移動可能に接続される、請求項 1 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 3】

前記遠位突起および前記近位突起は、離間されたレール場所に沿って順次展開のために構成される、請求項 2 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 4】

前記近位突起は、前記レール上で摺動可能である、請求項 1 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 5】

前記遠位突起および前記近位突起のうちの少なくとも 1 つは、回転可能である、請求項 1 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 6】

前記遠位突起および前記近位突起のうちの少なくとも 1 つは、湾曲スライドタブを含む、請求項 1 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 7】

前記遠位突起および前記近位突起のうちの少なくとも 1 つは、展開構成にあるとき、前記レールと略垂直である、請求項 1 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 8】

前記遠位突起および前記近位突起は、ラッチワイヤによって送達される張力を受ける、請求項 1 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 9】

ラッチワイヤ解放機構をさらに備える、請求項 1 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 10】

前記ラッチワイヤ解放機構は、前記レールに接続されるラッチプレート内に解放可能スナップ嵌合部を備える、請求項 9 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 1 1】

折畳式遠位突起と、折畳式近位突起とを備える、内視鏡クリップ。

【請求項 1 2】

前記折畳式遠位突起および前記折畳式近位突起のそれぞれに接続される解放可能レールをさらに備える、請求項 1 1 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 1 3】

前記折畳式遠位突起および前記折畳式近位突起は、前記レールに対して略垂直構成で係止される、請求項 1 2 に記載の内視鏡クリップ。

【請求項 1 4】

内視鏡クリップシステムであって、前記内視鏡クリップシステムは、請求項 1 または請求項 1 1 に記載の内視鏡クリップを備え、

前記内視鏡クリップは、胃腸出血を停止させる、場所をマークする、または穿孔および粘膜欠陥を閉鎖するために使用される、内視鏡クリップシステム。

【請求項 1 5】

前記内視鏡クリップシステムは、シースをさらに備え、

前記内視鏡クリップは、折畳構成で前記シースの中に導入されるように構成され、前記シースは、組織治療部位とすぐに平行な非折畳構成で前記内視鏡クリップを提供するように後退させられるように構成される、ステップを含む、請求項 1 4 に記載の内視鏡クリップシステム。

【請求項 1 6】

前記遠位突起および前記近位突起は、順次展開のために構成される、請求項 1 4 に記載の内視鏡クリップシステム。

【請求項 1 7】

前記近位突起は、圧力が前記シースのシース端に印加されるとき、前記遠位突起に向かって移動可能なように構成される、請求項 1 4 に記載の内視鏡クリップシステム。

【請求項 1 8】

前記遠位突起および前記近位突起は、ラッチワイヤによって送達された張力を受ける、請求項 1 4 に記載の内視鏡クリップシステム。

【請求項 1 9】

前記内視鏡クリップは、ラッチ撓曲領域を有するラッチプレートをさらに備え、前記内視鏡クリップシステムは、前記ラッチ撓曲領域に圧力を印加するための管端を有する管をさらに備える、請求項 1 4 に記載の内視鏡クリップシステム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

本発明の特定の実施形態は、以下に詳細に説明されるが、種々の設計構成は、本発明者らによって発見され可能にされた有益な設計構成ならびに前述の特徴のうちの 1 つまたはそれを上回るものを利用し得ることに留意されたい。

本発明は、例えば、以下を提供する。

(項目 1)

レールと、遠位突起と、近位突起とを備える、内視鏡クリップ。

(項目 2)

前記遠位突起および前記近位突起はそれぞれ、前記レールに移動可能に接続される、項目 1 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 3)

前記遠位突起および前記近位突起は、離間されたレール場所に沿って順次展開のために

構成される、項目 2 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 4)

前記近位突起は、前記レール上で摺動可能である、項目 1 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 5)

前記遠位突起および前記近位突起のうちの少なくとも 1 つは、回転可能である、項目 1 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 6)

前記遠位突起および前記近位突起のうちの少なくとも 1 つは、湾曲スライドタブを含む、項目 1 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 7)

前記遠位突起および前記近位突起のうちの少なくとも 1 つは、展開構成にあるとき、前記レールと略垂直である、項目 1 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 8)

前記遠位突起および前記近位突起は、ラッチワイヤによって送達される張力を受ける、項目 1 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 9)

ラッチワイヤ解放機構をさらに備える、項目 1 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 10)

ラッチワイヤが、前記レールに接続されるラッチプレート内に解放可能スナップ嵌合部を備える、項目 9 に記載のラッチワイヤ解放機構。

(項目 11)

折畳式遠位突起と、折畳式近位突起とを備える、内視鏡クリップ。

(項目 12)

前記折畳式遠位突起および前記折畳式近位突起のそれぞれに接続される解放可能レールをさらに備える、項目 11 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 13)

前記折畳式遠位突起および前記折畳式近位突起は、前記レールに対して略垂直構成で係止される、項目 12 に記載の内視鏡クリップ。

(項目 14)

項目 1 または項目 11 に記載の内視鏡クリップを使用する方法。

(項目 15)

前記内視鏡クリップは、胃腸出血を停止させる、場所をマークする、または穿孔および粘膜欠陥を閉鎖するために使用される、項目 14 に記載の方法。

(項目 16)

前記内視鏡クリップを折畳構成でシースの中に導入し、前記シースを後退させ、組織治療部位とすぐに平行な非折畳構成で前記内視鏡クリップを提供するステップを含む、項目 14 に記載の方法。

(項目 17)

前記遠位突起および前記近位突起の順次展開を含む、項目 14 に記載の方法。

(項目 18)

圧力をシース端に印加し、前記近位突起を前記遠位突起に向かって移動させるステップをさらに含む、項目 14 に記載の方法。

(項目 19)

ラッチワイヤを介して、張力を前記遠位突起および前記近位突起に印加するステップをさらに含む、項目 14 に記載の方法。

(項目 20)

管端を用いて、圧力をラッチ撓曲領域に印加するステップをさらに含む、項目 14 に記載の方法。

专利名称(译)	内窥镜夹子		
公开(公告)号	JP2018507089A5	公开(公告)日	2019-04-11
申请号	JP2017564773	申请日	2016-03-04
[标]发明人	メリフィールドベンジャミン スミスアダム シェンブレドリュウ		
发明人	メリフィールド, ベンジャミン スミス, アダム シェンブレ, ドリュウ		
IPC分类号	A61B17/10 A61B17/08		
CPC分类号	A61B17/122 A61B17/08 A61B17/083 A61B17/1285 A61B2017/0034 A61B2017/00584 A61B2017/00646 A61B2017/12004 A61B2090/3991		
FI分类号	A61B17/10 A61B17/08		
F-TERM分类号	4C160/CC02 4C160/CC07 4C160/CC18		
代理人(译)	夏木森下 饭田TakashiSatoshi 石川大介 山本健作		
优先权	62/128311 2015-03-04 US		
其他公开文献	JP2018507089A		

摘要(译)

夹子技术领域本发明涉及一种夹子，尤其涉及一种内窥镜夹子。本发明的夹子包括导轨，近侧突出部和远侧突出部。本发明的夹子包括折叠突出部是多个顺序扩张，其中，通过所述轨道和齐平的折叠位置旋转到大约90°到导轨的角度，部署在大致垂直的方式它可以是。近端突起可以相对于轨道可旋转和纵向滑动。远侧突出部可相对于轨道旋转。可以将本发明的可折叠夹子递送到护套内的目标部位。该护套从折叠夹缩回，从而使调配，鞘端，接着，对压接，在朝向前端突起的纵向近侧突起滑动以便推可以用。夹子可以是可释放的并且可从门锁线释放。